

入部委員 御発表資料

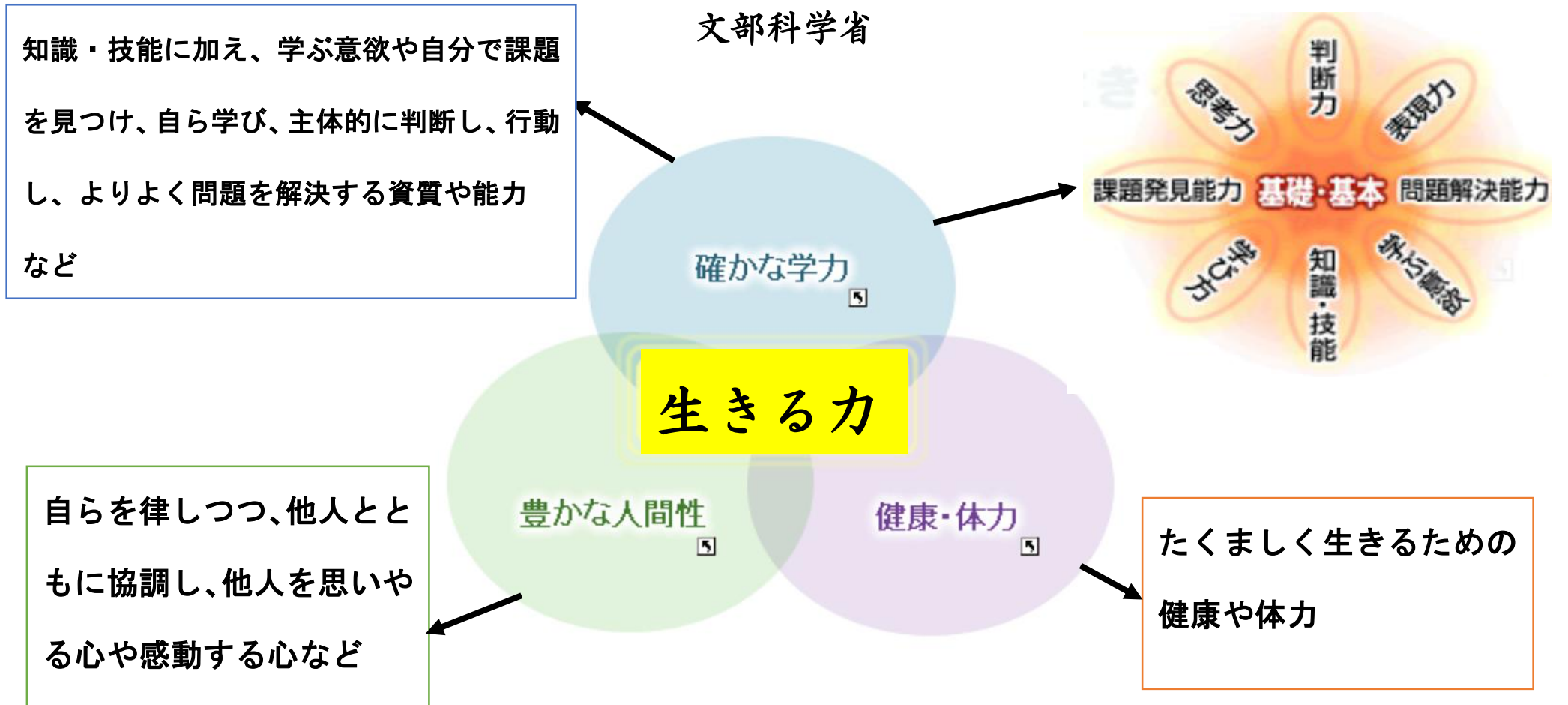
- 1 アンケート調査：コミュニケーション力について
- 2 文部科学省「生きる力」
- 3 内閣府「人間力」
- 4 厚生労働省「就職基礎力」
- 5 経済産業省「社会人基礎力」
- 6 全米大学協会による大学の共用ルーブリック (VALUE Rubrics)
- 7 文章によるコミュニケーションのルーブリック (Written Communication)
- 8 言語的コミュニケーションスキルと関係する答申

アンケート調査：コミュニケーション力について

資料1（入部）

自身が認識しているコミュニケーション力について質問します。次の各項目について「自信がある まあまあ自信がある あまり自信がない 全く自信がない」の一つを選び、○を塗りつぶしてください。

コミュニケーションの目的	質問項目	自信がある	まあまあ自信がある	あまり自信がない	全く自信がない
1. 間違った仕事はしない	A 漢字や熟語が書ける	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
	B 漢字や熟語が読める	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
	C 漢字や熟語の意味がわかる	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
2. 円滑な人間関係を構築する	D 「です ます」などの丁寧語が使える	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
	E 「いらっしゃる」などの尊敬語が使える	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
	F 「うかがう（行く）」などの謙譲語が使える	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
3. 信頼と秩序を保つ	G 依頼する時の伝え方（表現方法）がわかる	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
	H 謝罪する時の伝え方（表現方法）がわかる	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
	I 感謝の伝え方（表現方法）がわかる	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
4. 率直な意見を述べる	J 主張（考え）を伝えることができる	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
	K 主張を支える根拠を伝えることができる	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
5. 誤解が発生する確率をできるだけ低くする	L 難しい内容をわかりやすく伝えることができる	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
6. 話し合い、理解を深める	M 他の人に反論されても、さらに主張することができる	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
	N 自身の根拠が弱いと気づいた時、素直に他の人の考えを受け入れることができる	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>



資料3 (入部)

●人間力 (内閣府「人間力戦略研究会報告書」、2003年4月より)

人間力は「社会を構成し運営するとともに、自立した一人の人間として力強く生きていくための総合的な力」をいい、次の要素によって構成されています。

構成要素	項目	内容
知的能力的要素	基礎学力	総合的・本質的な見方、専門の基礎的知識、数量的リテラシー (表・グラフ等)、情報リテラシー (情報コミュニケーション技術等) について理解し、活用できる。
	専門的な知識・ノウハウ	専門的知識と技能について、その背景や応用を含め、理解し、活用できる。
	論理的思考力	情報を収集し、複眼的・論理的に分析し、それを的確に表現できる。
	創造力	異なる知識を組み合わせたり、常識や固定観念にとらわれない新たな発想をしたり、さまざまな角度から柔軟に考えたりすることで、新しい価値や新たな行動を生み出すことができる。
社会・対人関係力的要素	コミュニケーションスキル	同じ世代の人たちだけでなく、異なる文化・世代・立場の人たちに対しても、傾聴し、気持ちや意思を推察・尊重・共感し、自分の気持ちや意思を適切に伝え、共に理解し合い、考えの対立を調整できる。
	リーダーシップ	目標やビジョンと問題意識をチームで共有し、メンバーの役割を明確にし、メンバーの能力の向上を支援し、メンバーの気持ちに配慮しながら支え、目標を妨げるメンバーの行動に対してはその理由を述べて注意し、チームを目標達成に導くことができる。
	公共心	社会の一員であることを自覚し、社会の問題を自分の問題として考え、社会全体の利益となるよう積極的に行動できる。
	規範意識	自分が判断・行動するときに従うべき基準について深く理解し、自主的・自立的に規律ある行動をすることができる。
	他者を尊重し切磋琢磨しながらお互いを高め合う力 (相互啓発力)	他者の考えや意見 (良かった点や改善点など) に素直に真摯な態度で耳を傾けるとともに、自分の考えや意見を謙虚に誠実な態度で発表したり、お互いのすぐれた点を見習ったりすることで、お互いに視野を広げ、啓発し合うことができる。
自己制御的要素	意欲	生涯にわたって学び続けていきたいという学修意欲、自らを向上させて自分に合った職業について自立した社会生活を送りたいという就業意欲、ボランティア活動・地域活動等に参加して社会に貢献したいという社会参加意欲、高い目標を持ち成し遂げたいという目的意欲を持っている。
	忍耐力	目標を持ち、その実現のために、自分の欲求や衝動を適切にコントロールし、信念を持って粘り強く取り組むことができる。
	自分らしい生き方や成功を追求する力 (自己受容・自己実現力)	自分をありのままに直視して受け入れたり、成功モデルや理想像、十年後の自分 (必然的未来像) を思い描いて踏み出したり、自分の可能性を探し、広げ、生かしていくことで、自己実現に向けて努力できる。

就職基礎能力

(厚生労働省)

コミュニケーション能力	意思疎通	自己主張と傾聴のバランスを取りながら効果的に意思疎通ができる
	協調性	双方の主張の調整を図り調和を図ることができる
	自己表現力	状況にあった訴求力のあるプレゼンができる
職業人意識	責任感	社会の一員として役割の自覚を持っている
	向上心・探求心	働くことへの関心や意欲を持ちながら進んで課題を見つけ、レベルアップを目指すことができる
	職業意識・勤労観	職業や勤労に対する広範な見方・考え方をもち、意欲や態度等で示すことができる
基礎学力	読み書き	職務遂行に必要な文書知識を持っている
	計算・数学的思考	職務遂行に必要な数学的な思考方法や知識を持っている
	社会人常識	社会人として必要な常識を持っている
ビジネスマナー	基本的なマナー	集団社会に必要な気持ちの良い受け答えやマナーの良い対応ができる
資格取得	情報技術関係の資格	経理・財務関係の資格
		語学関係の資格

「社会人基礎力」とは

- 平成18年2月、経済産業省では産学の有識者による委員会(座長:諏訪康雄法政大学大学院教授)にて「**職場や地域社会で多様な人々と仕事をしていくために必要な基礎的な力**」を下記3つの能力(12の能力要素)から成る「**社会人基礎力**」として定義づけ。

< 3つの能力 / 12の能力要素 >

前に踏み出す力 (アクション)

～一歩前に踏み出し、失敗しても粘り強く取り組む力～



主体性

物事に進んで取り組む力

働きかけ力

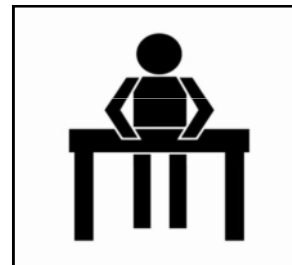
他人に働きかけ巻き込む力

実行力

目的を設定し確実に行動する力

考え抜く力 (シンキング)

～疑問を持ち、考え抜く力～



課題発見力

現状を分析し目的や課題を明らかにする力

計画力

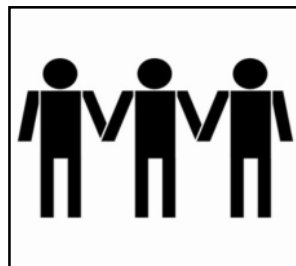
課題の解決に向けたプロセスを明らかにし準備する力

創造力

新しい価値を生み出す力

チームで働く力 (チームワーク)

～多様な人々とともに、目標に向けて協力する力～



発信力

自分の意見をわかりやすく伝える力

傾聴力

相手の意見を丁寧に聴く力

柔軟性

意見の違いや立場の違いを理解する力

状況把握力

自分と周囲の人々や物事との関係性を理解する力

規律性

社会のルールや人との約束を守る力

ストレスコントロール力

ストレスの発生源に対応する力

* 全米大学協会による大学の共用ルーブリック (VALUE Rubrics)

カテゴリー	提供されているルーブリック
知力・実践力 (Intellectual and Practical skills)	探求と分析 (Inquiry and analysis)
	批判的思考 (Critical thinking)
	創造的思考 (Creative thinking)
	文章によるコミュニケーション (Written communication)
	口頭によるコミュニケーション (Oral communication)
	文章理解 (Reading)
	定量的分析能力 (Quantitative literacy)
	情報リテラシー (Information literacy)
	チームワーク (Teamwork)
	問題解決 (Problem solving)
個人ならびに社会的責任 (Personal and Social Responsibility)	地域と世界に対する市民の理解・能力 (Civic knowledge and competence-local and global)
	異文化理解・能力 (Intercultural knowledge and competence)
	倫理的推論 (Ethical reasoning)
	生涯学習のための基礎能力 (Foundations and skills for lifelong learning)
	グローバルラーニング (Global learning)
統合的・応用学習 (Integrative and Applied Learning)	統合的・応用学習 (Integrative and applied learning)

* Association of American Colleges & Universities (AAC&U)

文章によるコミュニケーションのルーブリック (Written Communication)

	最高レベル	中間レベル		標準レベル
	4	3	2	1
文章作成条件と目的 課題に対する読み手や目的、諸条件の理解と確認	文章の細部にわたり、課題に対する条件や読み手、目的を良く理解した上で文章を作成している。	課題に対し、十分に条件や読み手、目的を理解して文章を作成していることが明確にわかる。(例えば、読み手や目的、条件を理解したことがくみ取れる整合性を文章が持っているなど。)	課題に対し、条件や読み手、目的を意識していることがわかる。(例えば、読み手を意識して書き始めていることがわかるなど。)	課題に対し、条件や読み手、目的に最低限の気配りはできている。(例えば、読み手として指導者や自身を想定して書くことはできるなど。)
文章の展開	主題に沿って、関連する内容によって説得力のある文章展開となっており、文章全体にわたって作者の課題に対する理解を十分に感じさせる作品となっている。	自己の考えを伝えるために、関連する学問分野を探求し、適切で、説得力のある文章で表現しており、文章全体が整っている。	自己の考えを伝えるために、適切で説得力のある文章で、大体が構成されている。	自己の考えを伝えるために、文章のある部分では、適切で説得力のある文章で構成されている。
形式と学問分野による慣例事項 特定の学問領域あるいは学際的な学問分野で慣習となっている固有の公式あるいは非公式な決まり事	構成や内容、表現や形式、文体など、課題のテーマの学問領域に関する慣例事項によく目を通し、文章の細部にわたって注意を払い、表現している。	構成や内容、表現や形式、文体など、課題のテーマの学問領域に関する慣例事項について、矛盾することなく表現している。	基本的な構成や内容、表現について、課題のテーマの学問領域に関する慣例事項について、理解した上で表現している。	基本的な構成と表現について、矛盾のない程度に表現している。
根拠や裏付け	自己の考えを表現するために、関連する学問分野の根拠や裏付けを集め、書式を整えて、内容的にも技術的にも質の高い文章を作成している。	自己の考えを表現するために、関連する学問分野の根拠や裏付けを集め、矛盾することなく表現している。	自己の考えを表現するために、関連する学問分野の根拠や裏付けを集め、適切に表現しようとしている。	自己の考えを表現するために、根拠や裏付けを集めようとしている。
文法や技法の扱い	品格のある言葉を用いて、読み手に明確に、よく理解されるよう表現を工夫しており、言葉の誤りは見る限りない。	率直な言葉を用いて、読み手に大体理解されるよう表現をしており、言葉の誤りはほとんどない。	言葉の誤りは見受けられるが、読み手に伝わる一般的な言葉で表現されている。	言葉の誤りがあるために、意味が伝わらない表現がある。

(訳出：入部明子)

言語的コミュニケーションスキルと関係する答申

資料8 入部

コミュニケーションの目的	言語的コミュニケーションスキル	関係する答申	摘要項目
1. 間違った仕事はしない	A 漢字や熟語が書ける	2004年答申 『改定常用漢字表』	2 本表 3 ページ～167 ページの「例」
	B 漢字や熟語が読める		
	C 漢字や熟語の意味がわかる		
2. 円滑な人間関係を構築する	D 「です ます」などの丁寧語が使える	2007年答申 『敬語の指針』	第2章 敬語の仕組み 第3章 敬語の具体的な使い方
	E 「いらっしゃる」などの尊敬語が使える		
	F 「うかがう(行く)」などの謙譲語が使える		
3. 信頼と秩序を保つ	G 依頼する時の伝え方(表現方法)がわかる	2010年答申 『これからの時代に求められる国語力について』	「第3 望ましい国語力の具体的な目安」10 ページ 相手や場面・目的に応じ、伝えるべき内容を分かりやすく話すことができる
	H 謝罪する時の伝え方(表現方法)がわかる		
	I 感謝の伝え方(表現方法)がわかる		
4. 率直な意見を述べる	J 主張(考え)を伝えることができる	2010年答申 『これからの時代に求められる国語力について』	「第3 望ましい国語力の具体的な目安」9 ページ 自分の考えを明確にして、説得力を持って論理的に伝えることができる
	K 主張を支える根拠を伝えることができる		
5. 誤解が発生する確率をできるだけ低くする	L 難しい内容をわかりやすく伝えることができる	2010年答申 『これからの時代に求められる国語力について』	「第3 望ましい国語力の具体的な目安」10 ページ 様々な情報を収集して、それに基づいて明確な文章を書くことができる
6. 話し合い、理解を深める	M 他の人に反論されても、さらに主張することができる	2010年答申 『これからの時代に求められる国語力について』	「第3 望ましい国語力の具体的な目安」9 ページ 話の要旨を的確に把握して、その内容を理解できる
	N 自信の根拠が弱いと気づいた時、素直に他の人の考えを受け入れることができる		

全体として関係する資料「ことばシリーズ」「新ことばシリーズ」(国立国語研究所)